

《寄稿》七尾市民の心こもるみそ汁に力をもらう

中路 尚子

5月3、4日の二日間、石川県七尾市で被災地支援のボランティア活動を行いました。八尾山の会から参加した3名は、経験者1名、未経験者2名です。2日23時八尾を出発し、3日4時30分にテント村着。仮眠後、七尾市文化センターに本部を置くボランティアセンターへ徒歩で移動しました。

5月3日は、地震から124日目。ボランティアセンターで班分けとオリエンテーリングがあり、見知らぬ者同士で班を編成し活動します。送迎、軽トラ、2トン運転手に免許のある人が次々立候補していき班メンバーが決まり、そこにリーダー、保健係りなど役割分担をします。班は8班ありました。「パディコン」と呼ばれる携帯電話とトランシーバーが一体になった機器を持ち、リアルタイムでやり取りをして活動します。私たち3名（1名は2トン運転手）を含む8名で3件のお家の片づけを依頼されました。

本部から「“災害ゴミ”とは言わないでください。地震が起きるまでそれは家族にとって大切な家具や品物です」との指示がありました。依頼主宅から畳やタンスなど家族だけでは処分できないものを運び出しました。廃棄物はかなり細かく分別しました。少し早めに作業が終わったと思ったら、本部から追加の指示があり4件目に向かいました。

作業をやり終え、テント村にチェックイン。テント泊できるだけでもありますが、夜ご飯を地元ボランティアの方が作ってくれていました。ごはん、肉じゃが、タケノコとアスパラの天ぷら、海老だしのイワシのつみれとセリ入りみそ汁、キムチなど御馳走です。コーヒー、紅茶、お茶なども自由に飲めるようにセッティングされていました。県外ボランティアに対して地元ボランティアが支える関係が、ここにはありました。日中24度、夜4度というかなり温度差がある中、テントでは疲れもあって熟睡できました。

5月4日、地震から125日目。この日は10班あり、私たちの班は10人でした。3件の依頼主さん宅で作業しました。そのうち1件は、外壁がはがれた家での作業。コンクリートに針金が混入している壁材は切断しにくく重さもあり、前日より暑く作業がはかどらず難儀しました。

作業後は、みなさんから感謝されました。飲食店や温泉施設どこへ行ってもお礼を言われました。疲れはあるものの被災された方々から力をもらい、感動の二日間でした。

(なかじなおこ、八尾山の会会長)